

水郷延岡発祥「橋の日」

8月4日 清掃や慰霊・平和法要など

橋への感謝を示す延岡発祥の水辺イベント「第37回延岡橋の日」(野中玄雄代表)は4日、同市の大瀬川に架かる安賀多橋とその周辺河川敷で行われる。昨年同様、新型コロナウイルス感染症防止を徹底し、清掃や慰霊・平和法要、合唱、ウォーキングなどが予定されている。同実行委員会(塩月隆久委員長)主催。

テーマは「守ろう!」水郷延岡「豊かな自然」。国土交通省延岡河川国道事務所や県延岡土木事務所、延岡観光協会、延岡華道連盟、延岡警察署、延岡市など官民各団体が参加する。当日は午前5時50分から、橋の歩道や欄干、周辺オーキングと水辺ウォッチングを行い、同7時30分ごろ解散する。野中代表は「水辺から環境を見詰め、その保全を目指す活動。水郷延岡の豊かな自然に心を注ぐこの機会が、SDGs(持続可能な開発目標)推進にもつながる」としている。



大瀬川河川敷の雑草を集める参加者(2021年の第36回延岡橋の日から)



安賀多橋の命の橋碑に献花する参加者(2020年の第35回延岡橋の日から)

橋の日イベント実施状況

都道府県名	市町村名	橋名	開始年	都道府県名	市町村名	橋名	開始年	
宮崎県	延岡市	安賀多橋	1986	北海道	釧路市	幣舞橋	2005	
	延岡市	上安賀多橋	2011		釧路市	富里橋	ほか	2017
	延岡市	上安賀多橋	2007	釧路市	利尻町	かもめ橋	2018	
	延岡市	亀井橋・板田橋	2008	釧路市	利尻町	夕顔橋	2018	
	宮崎市	橋	1987	岩手県	盛岡市	夕顔橋	2005	
	宮崎市	青島弥生橋	2018	盛岡市	旭橋	ほか	2015	
	日之影町	青雲橋	1990	盛岡市	開運橋	2022		
	日之影町	天翔大橋	2004	盛岡市	蓮菜橋	2006		
	日之影町	ふれあい橋	2018	静岡県	三島市	三島スカイウォーク	2016	
	都城市	市庁舎内	1992	大分県	大分市	萬年橋	2006	
	都城市	北泉橋	2000	大分市	宇佐市民図書館	2008		
	都城市	関之尾吊橋	2017	宇佐市	鳥居橋	ほか	2008	
	日向市	市庁舎内	1994	九重町	九重「夢」大吊橋	2008		
	日向市	たいえい橋	1994	九重町	橋の駅しらとり	2015		
	日向市	塩見橋	2015	中津市	耶馬溪橋	2022		
	門川町	尾末大橋	ほか	1994	長崎県	長崎市	眼鏡橋	2008
	日南市	堀川橋	2004	長崎市		出島橋	ほか	2013
日南市	夢見橋	ほか	2011	長崎市		女神大橋	2015	
日南市	本町橋・稲荷下橋	2012	長崎市	桃溪橋		2018		
日南市	大谷橋	ほか	2013	神奈川県	川崎市	県立川崎図書館	2008	
高千穂町	青葉大橋	2009	高知県		四万十町	一斗伎沈下橋	ほか	2009
高千穂町	水ヶ崎大橋	2009	長野県	飯山市	中央橋	ほか	2014	
高千穂町	神都高千穂大橋	2017		上田市	ローマン橋	ほか	2011	
高千穂町	かりこぼろ大橋	2016	長野市	久米路橋	ほか	2013		
西米良村	村所橋	2018	上野村	上野スカイブリッジ	2010			
美郷町	出橋	2021	波川市	河鹿橋	2022			
美郷町	福島大橋	2020	茨城県	常陸太田市	竜神大吊橋	2010		
申岡町	本庄橋	2020		大子町	袋田の滝吊り橋	2022		
国富町	開運橋	2021	青森県	鶴田町	鶴の舞橋	2010		
都農町	梶山橋	2021		八戸市	石堂20号橋	ほか	2014	
三股町	元宮橋	2021	沖縄県	那覇市	明治橋	2011		
十津川村	谷瀬の吊り橋	1992		那覇市	那覇大橋	2014		
十津川村	津渡橋	2021	那覇市	金城ダム・ヒジ川橋	2017			
福岡県	福岡市	名島橋	1994	那覇市	北明治橋	2020		
北九州市	春吉眼鏡橋	2013	那覇市・豊見城市	真玉橋	2015			
	北九州市	関門橋	2013	宜野湾市	新古牧港橋	2013		
大川市	筑後川昇開橋	2021	今帰仁村	今古宇利大橋	2015			
	大川市	舞鶴橋	ほか	豊見城市	豊見城高橋	2016		
佐賀県	唐津市							

多くの縁に感謝

提唱者の湯浅さん(延岡市出身)

「橋の日」提唱者の湯浅利彦さんは、4日を前に「最近過去を振り返る多くの人たちとの縁を再確認でき、改めて感謝の気持ちでいっぱい」と全国各地の仲間への思いを語った。



2015年当時を振り返る湯浅さん

40年以上前から残している自身の活動記録のうち、今でも最初に目につくのは2015年7月3日の出来事。午前9時ごろ、滋賀県職員から同県大津市の瀬田川に架かる「瀬田の唐橋」が橋の日活動に参加するとの連絡があったという。

肩肘張らずが長続きの秘訣

全国47都道府県での実施が確定となったこの日は、偶然にも30回の節目を迎える延岡橋の日の準備中、湯浅さんは「あくまで各地が自由に活動してもらうことが大切。私も肩肘張らずフリーの立場で見守らせてもらっている。それが「橋の日」の長続きの秘訣(ひけつ)だと思う」と話している。

会当日。早速、会合の場で報告すると、関係者から喜びと祝福の声寄せられた。7年前の節目を思い返す。「発祥の地延岡は、実行委がしっかり取り扱って官民各団体もうまくまとまっている。そんな皆さんからの温かい言葉が本当にうれしかった」と目を細める。

提唱から37年。年々、全国で仲間が増え続けている。その名勝に指耶馬溪の観アーチ橋で、石造りのては最長(約年)は建造10年5月の文化重要文化財へ申された。

湯浅さんへのほりを受け、耶馬溪橋(時令橋)事業(株)が事業実行委員会の事務局として「橋の日」を



橋の日の歌 (川・橋・そして人)

作詞 湯浅利彦

橋の日の歌
川・橋・そして人
作詞 湯浅利彦

新たな活動「橋の日」を
活動「橋の日」を
活動「橋の日」を

TOWN

2泊3日で沢登りなど楽しむ

県北の小中学生が自然体験

延岡

いた。大切な人への手紙は既に郵送されており、自分自身への手紙は、来年3月ごろ自宅へ届くという。

同自然の家職員の家
川健太郎さん（23）は「行勝の自然を存分に生かした活動で、子どもたちにとって、掛け替えのない思い出になったと思う。特に最終日に書いた自分自身への手紙は、次の学年に進む前に届くので、思い出を振り返り、次年度への活力にしてもらいたい」と話した。

県むかばき青少年自然の家（宮田靖所長）は7月16、18日の2泊3日で、県北の子どもたちを対象にした自然体験事業「むかばきひとり旅」を実施した。

ねらい。小学4年生から中学3年生までの41人が参加した。初日はメンバーの名前を覚えるためのレクリエーション、同施設の広い敷地を生かした野外炊飯や天体観測を実施。2日目は恒例の沢登りを行った。

親元を離れ、生活のあらゆることを自分自身ですることにより、子どもたちの自立（自律）心を高めることが

参加者はヘルメットとライフジャケットに身を包み、水の流れにも負けず行勝山の険しい岩場をくぐりと登って行った。沢ではマスカカも行われ、捕まえたマスは塩焼きにして食べた。

最終日は手紙を2通執筆した。一通は両親など大切な人への手紙、もう一通は未来の自分への手紙として書



「むかばきひとり旅」2日目。沢をくぐりと登って行く子ども（提供写真）